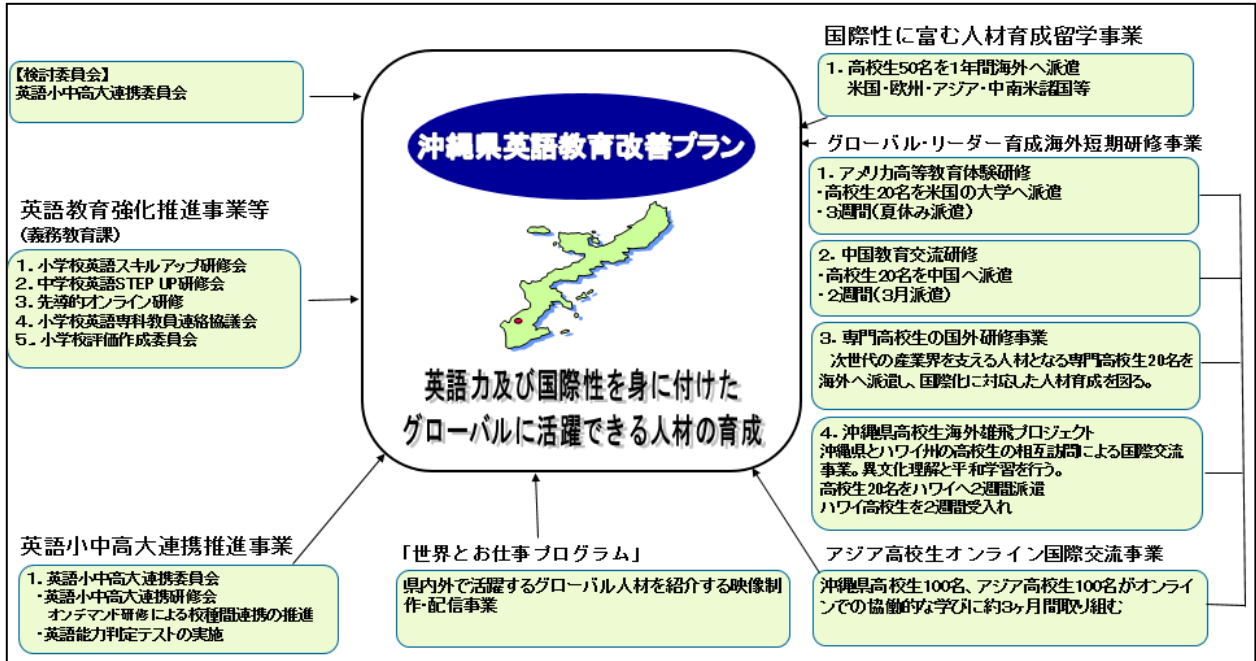


沖縄県英語教育改善プラン

実施内容



1. 当該地域における英語教育の課題

小学校

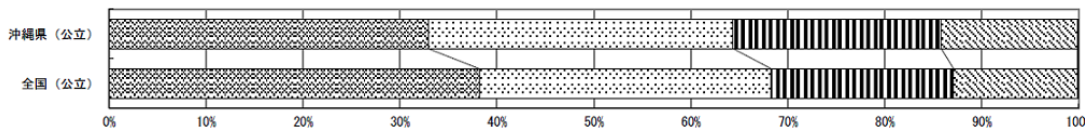
【小学校:全国学力・学習状況調査】

令和3年度全国学力・学習状況調査 回答結果集計 [児童質問紙] 沖縄県一児童(公立) 小学校調査

・以下の集計値/グラフは、5月27日に実施した調査の結果を集計した値である。

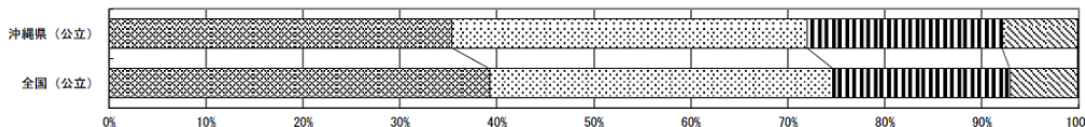
質問番号	質問事項										
(61)	英語の勉強は好きですか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
沖縄県(公立)	32.9	31.5	21.5	14.1						0.0	0.1
全国(公立)	38.2	30.1	18.8	12.8						0.0	0.1

☐1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☐3. どちらかといえば、当てはまらない ☐4. 当てはまらない ☐その他 ☐無回答



質問番号	質問事項										
(62)	5年生までに受けた英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
沖縄県(公立)	35.4	36.6	20.1	7.8						0.0	0.1
全国(公立)	39.2	35.4	18.2	7.0						0.0	0.1

☐1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☐3. どちらかといえば、当てはまらない ☐4. 当てはまらない ☐その他 ☐無回答



【小学校：英語教育実施状況調査】

校種	指標内容	2020		2021	
		目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	学習到達目標の整備状況	設定(%)	80.0%	90%	57.1%
		公表(%)	80.0%	90%	9.3%
		達成状況の把握(%)	80.0%	90%	45.1%

2021年度の「全国学力・学習状況調査」の「児童質問紙」では、「英語の勉強は好きですか」の項目で、値が64.4%となっており、全国より4ポイント弱低い結果となっている。また、「(中略)英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができているか」の値は、72%であり、全国より2.6ポイント低い結果となった。

また、「英語教育実施状況調査」の「学習到達目標の整備状況」において、「設定」57.1%、「公表」9.3%、「達成状況の把握」45.1%とかなり低い値になっている。

この2つの結果から、①自分の思いを表現する等の伝え合う楽しい授業展開ができていない、②目標を設定せずに授業を実施している、の2点が小学校の課題であると考えられる。①については、実際、教育事務所からの報告や、学校訪問等で見られる傾向として、担任教諭の指導力不足もあるが、専科教員でさえ評価にとられるあまり、小学校英語教育で大切な「伝え合うことの楽しさ」が消え、「評価のための活動」を行う授業が多く見られた。このことは、評価についての理解不足のため、言語活動を中心とした授業展開ができていないと考えられる。②についても、明確なゴールを持たずに授業を行っている学校が多数あることが分かる。

①と②の解決のために、ア)授業改善に向けた教師の指導力向上と評価の理解、イ)CAN-DOリストの設定が急務であると考えられる。

中学校

【中学校：英語教育実施状況調査】

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	98.0%	92.5%	98.0%	98.6%	100%	100%	94.2%	
		公表(%)	70.0%	16.3%	50.0%	20.7%	50.0%	60.0%	46.0%	
		達成状況の把握(%)	98.0%	49.0%	60.0%	44.8%	60.0%	70.0%	61.1%	
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	80.0%	69.3%	75.0%	72.3%	75.0%	75.0%	75.0%	63.7%	
	③パフォーマンステストの実施状況	スピーキングテスト(回)	3回	3回	3回	3回	3回	3回	3回	3回
		ライティングテスト(回)	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回
④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	73.0%	78.7%	80.0%	79.8%	83.0%	83.0%	83.0%	72.9%		
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50.0%	51.5%	55.0%	53.0%	55.0%	55.0%	55.0%	60.8%		
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	40.0%	37.3%	45.0%	34.5%	37.0%	37.0%	37.0%	44.2%		

2021年度の「英語教育実施状況調査」から見られる本県の大きな課題は、目標管理書に示されているとおり、中学校の①「学習到達目標の整備状況」、②「生徒の授業における言語活動の時間の割合」が低いことである。なお、2021年度は「求められる英語力を有する生徒の割合」が2019年度より10ポイント強高くなり、教師の英語力の向上とともに、生徒の英語力も向上している。

①「学習到達目標の整備状況」においては、「公表」の値が2019年度より改善が見られるが、依然として低い数値となっている。「達成状況の把握」の値は、61.1%であり、この値も改善しているが、およそ4割の学校において、CAN-DOリストは作成しているが、十分な活用に至っていないことが推測できる。このことから、改善傾向は見られるが、依然として、4割近くの教師が授業や単元の目標を明確に持たずに、授業を行っていることが考えられる。適切な評価規準や身に付けさせたい力等のゴール設定を明確に設定していないため、授業や単元において、目標到達までどのように授業の中でアプローチしていくかという教師の視点を持たない教師が一定数いることが分かる。

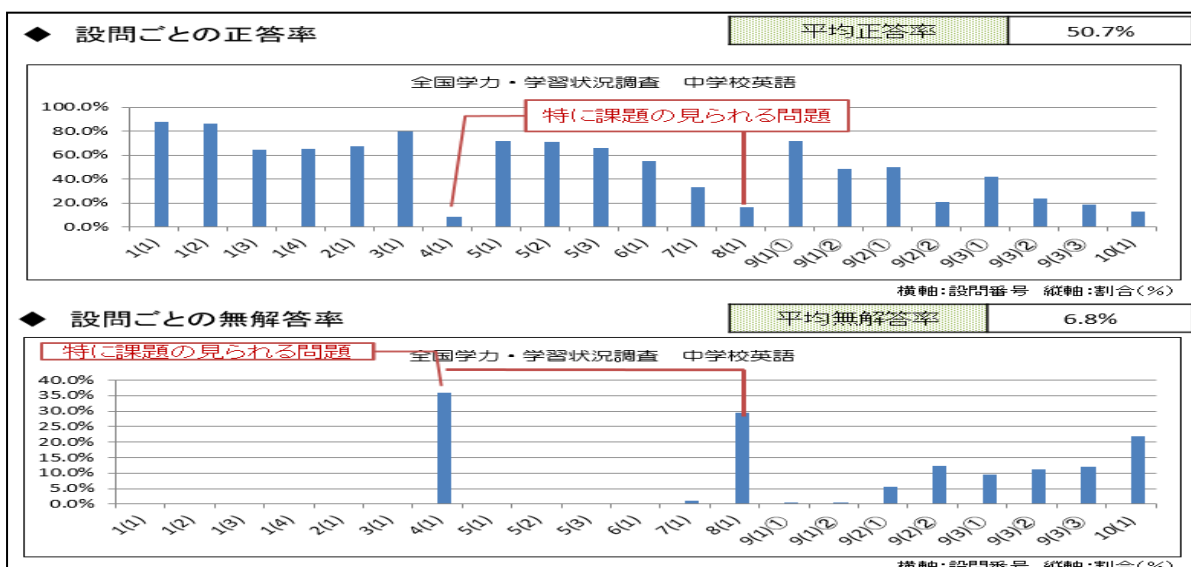
②「生徒の授業における言語活動の時間の割合」が、2019年度より8.6ポイント低い63.7%であるが、コロナ禍により十分な言語活動ができなかったことが影響していると思われる。しかし、いくつかの学校に聞き取りを行ったところ、ほとんどの学校が、「(授業内で)言語活動を行う時間確保が難し

かった」、「グループ活動(話すこと(やり取り)ができなかった」と答えていた。

この①と②の取組の弱さは、「指導と評価は一体化」という意識がまだ弱いためと考えられる。このことから、評価についての理解と、明確なゴール設定がないまま授業を行っている教員が多いことが伺える。

また、②においては、「聞く・読む・書く」活動も、「話すこと」同様、「目的・場面・状況」を明確に設定し、授業で取り組ませることで「言語活動」になることを理解させる必要があると考える。

【中学校:全国学力・学習状況調査】



【中学校:令和2年度 沖縄県学力向上到達度調査】

中学校 英語 2 学年

令和2年度 沖縄県学力向上到達度調査

特に課題の見られる問題

◆ 問題

10 次の英文は、ある日本人男性が書いたエッセイの一部です。これを読んで、次の質問に答えなさい。なお、(3)は Yes・No のどちらかを選択して○で囲み、主語と動詞を含む、適切な内容の5語以上の英文で書くこと。

(3) Do you like singing? If yes, why? If no, why not?

◆ 分析結果と課題

- 問題10(3)の正答率は49.4%であり、書かれた内容に対して、自分の考えを示すことに課題がある。
- 誤答率は22.9%であり、書かれた内容に対して理由を表現できていない生徒は、相手に伝わるような英語で表現することができていないと考えられる。
- 無解答率は27.8%である。これは、資料の内容を主体的に考えたり、判断したりしながら理解することができていないと考えられる。

◆ 関連する問題

調査問題の種類	設問番号	問題の概要	県の正答率
H30全国学力・学習状況調査	8	書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話しを内容や書き手の意見などを捉える	16.3%
R1学力到達度調査	10(3)	書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができる。	48.6%

2018年度に行われた「全国学力・学習状況調査」の問題において、大問4と大問8の問題に特に課題が見られた。(大問4:正答率9.1%、誤答率54.9%、無解答率36.0%。・大問8:正答率16.4%、誤答率54.1%、無解答率29.4%)2つの問題は、聞いたり、読んだりしたことについて、自分の意見を書く問題である。無解答率が高いのは、授業の中で聞いたことや読んだことを基に、自分の意見や考えを表現する言語活動が少ないためと捉えられる。

また、令和2年度に中学校2学年を対象におこなった、「沖縄県学力向上到達度調査」においても、読んだことに対して自分の意見を書く、領域統合型の問題に最も課題が見られた。

以上の調査等から見える課題から、本県では、中学校においては、㊦単元や授業の目標設定と把握、㊧目標到達のための言語活動の理解と充実、㊨領域統合型の言語活動の実施、の手立てが必要であると考ええる。

【小中学校:地域間の格差】

沖縄県は離島を多く抱えているため、担当教科が一人配置の離島の学校が多数存在する。そのため、学年会や教科会がなく、情報共有が行えない学校が多くある。研修会参加の機会が少ない離島勤務の教諭と本島内の教諭の指導力に差が見られる。そのため、離島の学校では、授業改善が進んでいない。離島にしながら研修会を受講できる手立てが必要である。

【小中連携の取組】

2021年度の小中連携の取組は、61.1%と2019年度より16ポイント減少した。大幅に減少した原因として、5ヶ月に及ぶ緊急事態宣言と2ヶ月のまん延防止等重点措置の実施があったため、中止を余儀なくされた学校がほとんどであった。次年度に向けて、小中のみならず、小中高連携の視点での研修会が必要であると考ええる。県立学校教育課と連携し、小中の連携のみならず中高連携研修会を実施し、英語教育を単独の校種だけで捉えるのではなく、小中高の繋がりを意識させる研修会を実施する必要がある。

【高等学校:英語教育実施状況調査】

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022			
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値		
高等学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	89.2%	100%			
		公表(%)	30.0%	18.6%	40.0%	20.4%	50.0%	60.0%	23.1%	70.0%			
		達成状況の把握(%)	50.0%	47.7%	60.0%	60.2%	70.0%	80.0%	51.6%	90.0%			
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	60.0%	55.9%	60.0%	51.9%	60.0%	60.0%	60.0%	52.9%	60.0%			
	現行課程	○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	3回	1.8回	3回	2.6回	3回	3回	1.4回			
			コミュニケーション英語Ⅱ	3回	1.5回	3回	1.8回	3回	3回	2.0回	3回		
			コミュニケーション英語Ⅲ	3回	1.5回	3回	1.5回	3回	3回	1.5回	3回		
			英語表現Ⅰ	5回	2.6回	5回	2.2回	5回	5回	1.3回			
			英語表現Ⅱ	5回	3.7回	5回	3.5回	5回	5回	7.3回	5回		
			○ライティングテスト(回)	5回	1.3回	5回	2.2回	5回	5回	1.6回			
		新課程	○スピーキングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ									3回
				英語コミュニケーションⅡ									
英語コミュニケーションⅢ													
論理・表現Ⅰ												5回	
論理・表現Ⅱ													
論理・表現Ⅲ													
新課程	○ライティングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ									5回		
		英語コミュニケーションⅡ											
		英語コミュニケーションⅢ											
		論理・表現Ⅰ									5回		
		論理・表現Ⅱ											
		論理・表現Ⅲ											
④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	75.0%	61.2%	75.0%	63.1%	75.0%	75.0%	75.0%	62.6%	75.0%				
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	78.0%	77.4%	80.0%	82.8%	83.0%	85.0%	85.0%	84.6%	90.0%				
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	52.0%	46.3%	54.0%	44.3%	50.0%	50.0%	50.0%	42.3%	50.0%				

英語教育改善プランで設定した目標値について、2021年度の高等学校の結果は次の通りであった。

2019年度結果との比較において改善方向にある項目は、「①生徒の授業における英語による言語活動時間の割合」「④英語担当教員の授業における英語使用状況」「⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合」である。一方、「①学習到達目標の整備状況」「③パフォーマンステストの実施状況」「⑥求められる英語力を有する生徒の割合」については、部分的に改善された項目もあるが、2021年度は前回調査を下回る結果となった。新型コロナウイルス感染症流行の影響が及ぶ中、各学校において設定目標や授業計画、評価計画等の調整を図りながら教育活動を進めている状況が反映された結果と推察する。

今後は、学校現場の状況を注視しつつ、英語教育改善プランの設定目標の改善を図り、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりへの取り組みを進める中で生徒の英語力の更なる向上につなげたい。

2. 1の目標を達成するための取組（施策の全体像と具体的な計画）

(1)で挙げた本県課題への手立てとして、令和4年度から次の研修会や取組を行うことを予定している。

【小学校】

①小学校スキルアップ研修会（一部オンラインを実施）

【目的】 小学校教諭の指導力と評価についての理解向上を図る。

【対象】 県内小学校全教諭（5年計画で実施）

【内容】 文部科学省視学官の講話及び英語教育推進リーダーや小学校英語専科を講師とした、学習指導要領、評価、効果的な教科書の活用や指導方法の理解とワークショップ

【仮説】 文部科学省視学官の講話と、質の高い授業実践を行っている英語教育推進リーダーや小学校英語専科教員から実践的スキルを学ぶことにより、小学校教諭の指導力向上と評価の理解が促進すると期待できる。また、講話等一部をオンラインでの開催をすることにより、離島勤務者の小学校英語教育の理解と評価の理解が向上すると考える。

②小学校英語専科教員連絡協議会

【目的】 小学校英語専科教員のスキルアップを図る

【対象】 小学校英語専科教員

【内容】 評価の研究や効果的な教科書の活用方法等の研究。他地区の英語専科との情報共有

【仮説】 協議会を通して、小学校英語専科の知識や指導力の向上に繋がり、質の高い授業実践が図られる。また、得られた知識・技能を所属校や近隣校の校内研修会等で波及することにより、県内全体の小学校外国語教育の向上が図れると期待できる。

③小学校 CAN-DO リストの作成委員会

【目的】 モデルとしての県版 CAN-DO リストを作成する。

【内容】 小学校英語専科及び英語教育推進リーダーによる、県版 CAN-DO リストを作成

【仮説】 県版 CAN-DO リストを作成し、これをモデルとして各学校へ周知を図ることにより、全学校で CAN-DO リストを作成することができ、身に付けさせたい力が明確になることで授業改善が期待できる。

④中学校英語二種免許認定講習の実施

【目的】 小学校教諭に中学校英語二種免許取得の推進を図る

【対象】 小学校教諭

【内容】 琉球大学と連携をし、中学校英語二種免許取得を目的とした認定講習

【仮説】 小学校教諭へ中学校英語二種免許を取得させることにより、英語力と指導力に優れた教諭が増えることにより、「質の高い英語教育」が実践することができると期待できる。

⑤小学校英語ラボ(オンライン)

【目的】 小学校英語教育の授業改善促進と中学校教諭の小学校英語教育の理解促進

【対象】 小中学校の教諭・指導主事

【内容】 小学校外国語の授業で使えるアクティビティーや教材の共有

【仮説】 実践に繋がるアクティビティーや教材の情報共有することにより、児童が楽しみながら力が付く授業展開の実施が期待できる。また、中学校の教諭が参加できることにより連携の視点が深まる。

【中学校】

①中学校 STEP UP 研修会

【目的】 「指導と評価の一体化」の理解と実践的な取組を通して、評価規準設定、定期テスト・単元テストの作成の知識・技能を向上させ、授業改善を図る。

【対象】 中学校教諭

【内容】 テスト作成や評価についての講義とワークショップ。県内各地区(6地区)で年間2回実施。第1回と第2回の研修会に繋がりを持たせ、各学校の評価やテスト改善を図る。

- ① 第1回は、大学講師等による講話とテスト作成や評価のワークショップを実施する。(5月～6月)
- ② 第1回研修会で学んだことを生かして、各学校でテストを作成・実施し、授業改善を図る。(6月～9月)
- ③ 第2回は、各校で作成したテスト及び生徒の変容等の成果を持ち寄り、情報共有する。(10月～11月)
- ④ 優れた評価規準設定、テスト及び成果を、教育事務所の担当主事が域内に研修会や校内研等で周知する。最も優れたものは、県のHPにアップする。また、オンデマンドで研修内容を視聴できるようにする。(12月～1月)

【仮説】 「指導と評価の一体化」の理解が進むことにより、定期テスト・単元テストを「見取りたい力」を図る効果的なテストを各学校で作成をすることができる。評価規準から Backward Design 的に授業の単元計画や必要な言語活動等を考えることにより、授業改善の促進が期待できると考える。また、オンデマンド配信することにより、参加が難しい離島教諭への視聴でき、離島と本島の教諭の格差の是正に繋がると考える。

②授業力アップ研修会

【目的】 領域統合型を意識した理論研と公開授業により、教員の指導力向上を図る。

【対象】 中学校教諭

【内容】 全国学力・学習状況調査の分析に基づいた領域統合型を意識した文部科学省学力調査官による講話と、授業実践。県内各地区(6地区)で年間2回実施。第1回と第2回の研修会に繋がりを持たせ、授業改善を促進する。

- ① 第1回は、学力調査官による講話と理論研。研修をオンデマンド配信する(5月～6月)
- ② 第1回研修会で学んだことを生かして、各学校で代表授業を実施し、授業改善を図る。(6月～10月)
- ③ 第2回は、地区の代表授業による授業参観と学力調査官からの指導助言に加え、授業についての研究協議を行う。公開授業はオンデマンドで配信する。(10月～11月)
- ④ 優れた地区代表授業者の指導案や各学校の報告書は、教育事務所の担当主事が域内に研修会や校内研等で周知する。最も優れたものは、県のHPにアップする。各学校は、各自の授業と地区の代表授業を比較・分析し、報告書を提出。(12月～1月)

【仮説】 第1回の理論研、第2回の代表授業の実践、協議と繋がりを持たせ、領域統合型を意識した公開授業を実践することにより、授業改善に繋がると期待できる。また、オンデマンド配信することにより参加が難しい離島教諭への視聴でき、離島と本島の教諭の格差の是正に繋がると考える

③「授業改善に向けた テスト作成ガイドブック」の活用促進

【目的】 県独自で作成している「授業改善に向けた テスト作成ガイドブック」(令和3年度内に完成予定)において、テスト作成の具体的に事例と、授業での言語活動の事例を紹介することにより、教員の指導と評価の一体化を促進し、授業改善に繋がるテスト作成の促進を図る。

【対象】 中学校英語教諭・指導主事

【内容】 テスト作成の具体的に事例とそのテストに至るまでの授業での言語活動の事例を紹介する。また、「中学校 STEP UP 研修会」と連動させ、充実を図る。全教員の活用促進のため、研修会と動画による活用の説明を配信する。

【仮説】 テスト作成のヒントや、テストの実施までの単元構想の方法を知ることにより、地域間のテストのレベルの均一を図ることができることと、指導と評価の一体化の理解が深まることを通して、授業改善に繋がる。また、動画による活用説明を配信することにより、学校のみならず教育事務所、市町村教育委員会の指導主事にも指導助言等で活用しやすくなり、テスト改善の促進が期待できる。

④先導的なオンライン研修実証事業

【目的】 小学校においては、小学校英語専科教員を優先に指導力向上を図る。中学校においては、離島勤務の教員の指導力向上を図る。

【仮説】 小学校においては、教員の指導力向上を図ることにより、「質の高い英語教育」を実践することができ、中学校においては、離島勤務教員の指導力が向上することにより、本島教員との指導力の差が解消することにより、県全体の児童生徒の英語力が向上すると期待できる。

【高等学校】

令和4年度は、高校英語担当教員対象として①教育課程説明会を、中高英語担当教員対象の合同研修として②高校入試分析説明会、③英語小中高大連携研修会の実施を予定している。研修会は、県の「英語教育改善プラン」の共有の場として活用するとともに、これらの研修を継続的に実施することで目標達成を図りたい。

① 教育課程説明会

令和3年度は、県立高校全英語科教員対象に新学習指導要領に関する教育課程研修会をオンデマンドで実施した。令和4年度の高等学校における新学習指導要領の実施を踏まえ、「評価」に関する内容を中心に取り組んだ。令和4年度も本研修の実施により、新学習指導要領の周知を図りたい。

② 高校入試分析説明会

県内7地区において、全ての公立中学校、県立高校より英語担当教員1名が参加する高校入試分析会を実施し、3技能(読む、聴く、書く)の向上に繋がる高校入試のありかたについて協議し、各学校での授業改善に取り組んでいる。

③ 英語小中高大連携研修会

令和4年度は、県内全ての中学校及び高校から1名以上の教員が参加するオンデマンド研修を予定している。校種間連携により本県学校英語教育の充実を図る。異校種の授業観察や県内大学より英語教育の専門人材を招聘し、本県英語教育の課題の共有や対応策について理解を深める。令和元年度から小学校の授業観察も加え、連携校種を小学校、中学校、高等学校、大学に拡大した。令和2年度から研修方法を参集型からオンデマンド型に変更したが、令和4年度以降もオンデマンドによる研修を継続する予定である。

4. 実施日程(予定)		
月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回英語小中高大連携委員会(英語教育改善プラン検討委員会) ・第1回教育事務所等英語教育担当指導主事会(実施事務局)【今年度の計画確認や検討等】 ・中学校授業改善アドバイザー研修会(5教科) ・「English Project チーム」定例会① 【方向性の確認・課題・情報共有】 	県内大学教授・県立・義務教育担当主事 県内英語担当指導主事 那覇地区指導主事
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校英語スキルアップ研修会(全6地区) ・中学校授業力アップ研究会(2地区) ・中学校英語 STEP UP 研修会(2地区) ・「English Project チーム」定例会② 【情報交換・次年度施策検討】 ・小学校 CAN-DO リスト作成委員会① ・小学校英語専科教員連絡協議会①(小学校外国語教育推進チーム) ・小学校英語ラボ①(オンライン) 	英語専科・推進リーダー等 教科調査官招聘 県内大学教授招聘 那覇地区指導主事 小学校英語専科教員
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・高校入試分析研修会(全6地区)(中学校・高校) ・ALT コーディネーター研修会 ・高校入試分析研修会(全6地区)(中学校・高校) ・小学校英語スキルアップ研修会(全6地区) ・中学校授業力アップ研究会(4地区) ・中学校英語 STEP UP 研修会(2地区) ・「English Project チーム」定例会③ 【情報交換・次年度施策検討】 ・小学校 CAN-DO リスト作成委員会② ・小学校英語ラボ②(オンライン) 	英語専科・推進リーダー等 教科調査官招聘 県内大学教授招聘 那覇地区指導主事
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・琉球大学「小学校教員のための中学校英語免許」免許法認定講習(長期休暇中に実施予定) ・小学校英語スキルアップ研修会(全6地区) ・中学校英語 STEP UP 研修会(2地区) ・「English Project チーム」定例会④ 【情報交換・次年度施策検討】 ・世界とお仕事プログラム(中・高校生) ・小学校 CAN-DO リスト作成委員会③ ・小学校英語ラボ③(オンライン) 	琉球大学教授等 教科調査官招聘 県内大学教授招聘 那覇地区指導主事
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程(外国語)研修会(全3地区)(高校) ・琉球大学「小学校教員のための中学校英語免許」免許法認定講習(長期休暇中に実施) ・中学校授業改善アドバイザー研修会(5教科) ・小学校英語スキルアップ研修会(全6地区) ・「English Project チーム」定例会⑤ 【情報交換・次年度施策検討】 	県内大学

	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程(外国語)研修会(全3地区)(高校) ・小学校 CAN-DO リスト作成委員会④ ・小学校英語ラボ④(オンライン) 	英語専科・推進リーダー 一等 那覇地区指導主事
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校英語 STEP UP 研修会(1地区) ・「English Project チーム」定例会⑥ 【情報交換・次年度施策検討】 ・小学校 CAN-DO リスト作成委員会⑤ ・小学校英語専科教員連絡協議会②(小学校外国語教育推進チーム) ・英語能力判定テスト【英研 IBA】{予定}(全中学校・高等学校) ・小学校英語ラボ⑤(オンライン) 	県外大学教授招聘 那覇地区指導主事 小学校英語専科教員
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校英語 STEP UP 研修会(2地区) ・中学校授業力アップ研究会(4地区) ・「English Project チーム」定例会⑦ 【情報交換・授業力アップ研の総括・次年度施策案作成】 ・小学校 CAN-DO リスト作成委員会⑥ ・小学校英語ラボ⑥(オンライン) 	県外大学教授招聘 教科調査官招聘 那覇地区指導主事
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回小中高大連携委員会(英語教育改善プラン検討委員会) ・中学校授業力アップ研究会(2地区) ・ALT等の指導力向上研修会 ・中学校英語 STEP UP 研修会(3地区) ・「English Project チーム」定例会⑧ 【情報交換・次年度施策案作成】 ・英語小中高大中高連携研修会(6地区)(中学校・高校) ・英語能力判定テスト(英検 IBA)結果検証に係るアンケート調査(高校) ・ALT等の指導力向上研修会 ・小学校 CAN-DO リスト作成委員会⑦ ・小学校英語ラボ⑦(オンライン) 	県内大学教授・県立・ 義務教育担当主事 教科調査官 県外大学教授招聘 那覇地区指導主事
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・「English Project チーム」定例会⑨ 【情報交換・施策案作成】 ・小学校 CAN-DO リスト作成委員会⑧ ・小学校英語ラボ⑧(オンライン) 	那覇地区指導主事
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回教育事務所等英語教育担当指導主事会(実施事務局)【今年度の成果と課題、次年度の取組計画等】 ・「English Project チーム」定例会⑩ 【情報交換・施策案修正】 ・小学校 CAN-DO リスト作成委員会⑨ ・小学校評作成委員会③ 	県内英語担当指導主事 那覇地区指導主事
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・「English Project チーム」定例会⑪ 【情報交換・施策決定】 ・小学校英語専科教員連絡協議会③(小学校外国語教育推進チーム) ・小学校 CAN-DO リスト作成委員会⑩ ・小学校英語ラボ⑨(オンライン) 	県外大学 県内大学 那覇地区指導主事

3月	・「English Project チーム」定例会 ^⑫ 【令和3年度のまとめ・次年度計画】 ・小学校英語ラボ ^⑩ (オンライン)	県の英語担当指導主事
<p>3. 2を実施する体制の概要</p> <p><主な実施体制></p> <p>(1) 検討委員会(外部の有識者や教育委員会、教員等による委員会) 「英語小中高大連携委員会(英語教育改善プラン検討委員会)」</p> <p>【構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人数 7 名 ・構成員の所属・専門分野等について 委員長：県内大学教授、准教授、講師、教育庁英語担当指導主事 <p>【活動内容について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育改善プランの検討 ・小中高大の連携について、施策や方向性の決定 ・小中高連携研修会についての協議 <p>(2) 実施事務局 「教育事務所等英語教育担当指導主事会」</p> <p>【構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人数 10 名 ・構成員の所属について 義務教育課担当主事、県立学校教育課担当主事、県立総合教育センター担当指導主事(英語・ICT 担当)、国頭教育事務所担当主事・中頭教育事務所担当主事・那覇教育事務所担当主事、島尻教育事務所担当主事、宮古教育事務所担当主事・八重山教育事務所担当主事、 <p>【活動内容について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種研修会の実施 ・教諭への指導助言 ・学校訪問 <p>(3) ①「English Project チーム」</p> <p>【構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人数 6 名 ・構成員の所属・専門分野等について 義務教育課担当指導主事(小中)、・那覇教育事務所指導主事、那覇市教育委員会担当指導主事、浦添市教育委員会担当主事、那覇市教育研究所担当指導主事 <p>【活動内容について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な小中連携の推進 ・中学校の英語力向上についての施策検討 ・小学校外国語教育の推進 <p>②「小学校外国語教育推進チーム」</p> <p>【構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人数 38 名(予定) ・構成員の所属・専門分野等について 小学校英語専科教員 <p>【活動内容について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価に関する研究 ・効果的な教科書の活用方法の研究 ・実践的な教科指導の推進・波及 		

③「小学校 CAN-DO リスト作成委員会」**【構成】**

- ・人数 8 名
- ・構成員の所属・専門分野等について
義務教育課担当主事、那覇市教育研究所主事、小学校英語専科教員、英語教育推進リーダー

【活動内容について】

- ・県版 CAN-DO リストの作成
- ・活用促進についての協議

(4)実施事務局と検討委員会の連携方法、役割分担について**(1)「英語小中高大連携委員会(英語教育改善プラン検討委員会)」(年3回の実施:参集型)**

大学教授等の外部機関と連携しながら、英語教育に関する県の取り組み、課題及び施策を協議・検討する。その意見等を施策に反映させ、各機関、実施事務局及び開発チームの取り組みの方向性を示す。

小中高で実施する英語教育に関する県の取り組み、及び施策を協議・検討するまた、「教育事務所等英語教育担当指導主事会」で報告のあった課題や意見等を施策に反映させ、各機関、実施事務局及び開発チームの取り組みの方向性を示す。また、小中高の連携について方向性を決定する機関とする。

(2)「教育事務所等英語教育担当指導主事会」(年3回実施:参集型)

(1)の機関で決定された英語教育に係る県の施策や課題、また、各地区における課題等の共通理解を各機関と図り、課題解決に向けた各種研修会等を実施し、成果報告と課題分析する機関とする。

また、ICTの活用や、離島も参加するオンラインやオンデマンド研修会については、教育センターと連携し、効果的なICT活用に関する研修会の実施を図る。

加えて、「English Project チーム」と「小学校外国語教育推進チーム」で出された施策や方向性の案を、この会で検討する

(3)①「English Project チーム定例会」(年12回実施:オンライン実施)

主に小中連携の促進と中学校の英語力向上に係る施策検討チームと位置づける。那覇地区の指導主事を中心に構成し、月1回程度の定例会において、現状分析、情報交換と小中の英語力向上に向けた施策の検討を行っていく。そこで出された案を、「教育事務所等英語教育担当指導主事会」でさらに検討し、令和5年度の県の施策等に反映させる。

②「小学校外国語教育推進チーム」(年3回実施:参集型)

小学校英語専科教員で構成されたチームで、主に小学校外国語に関する実践的な教科指導の研究を行う。全体会は年3回を予定しており、そこで得られた知識や実践的な教科指導法を校内や近隣校に周知・波及していく。

また、教育事務所主催の「小学校スキルアップ研修会」において、事務局と連携を図りながら、研修会の講師としてその成果の周知を図る。

③「小学校 CAN-DO リスト作成委員会」(年10回実施:参集型及びオンライン)

小学校英語専科及び小学校英語教育推進リーダーで構成されたチームで、県版 CAN-DO の作成と活用促進を主に行う。市町村教育委員会の指導主事にもアドバイスを受けながら、各学校が作成やリスト改善の際にモデルとなる CAN-DO リストについて、研究を進める。

4. 小学校教諭の新規採用に係る取組

小学校 専科	指標内容	2020	2020	2021	
		目標値	達成値	目標値	達成値
	新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合 (%)	5%	5%	10%	4.6%
	(人数)	10	11	20	10

[次年度の取組]

教員採用試験に、一定の英語力や中学校英語免許所持者には加点をする制度を平成 30 年度から盛り込んでいる。また、令和2年度から小学校英語専科の要件を満たす加点を10点から15点に引き上げ、規準も「CEFER B2」の得点にそろえた。改善を図りながら、一定の英語力を有する者の割合を引き上げていく。引き続き、学校人事課と連携して、一定の英語力を有する新規採用者の割合を増やしていく。

(令和2年度から適用)

- ① 小学校教諭等又は特別支援学校小学部教諭等を受験する者で、次のいずれかの資格を有する者
 - ア 英語に係る中学校又は高等学校教諭普通免許(15点)
 - イ 実用英語技能検定準1級以上、TOEFL iBT® 72点以上又は TOEIC® Listening & Reading Test 785点以上のいずれか(15点)
- ② 中学校教諭等「英語」又は高等学校教諭等「英語」を受験する者で、次のいずれかのを出願の2年前の4月1日以降に受験し、取得した者
 - ア 実用英語技能検定1級、TOEFL iBT® 95点以上又は TOEIC® Listening & Reading Test 945点以上のいずれか(20点)
 - イ 実用英語技能検定準1級、TOEFL iBT® 72点以上又は TOEIC® Listening & Reading Test 785点以上のいずれか(5点)

沖縄県教育委員会

a ※表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記入。

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	89.2%	100%		
		公表(%)	30.0%	18.6%	40.0%	20.4%	50.0%	60.0%	23.1%	70.0%		
		達成状況の把握(%)	50.0%	47.7%	60.0%	60.2%	70.0%	80.0%	51.6%	90.0%		
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	60.0%	55.9%	60.0%	51.9%	60.0%	60.0%	60.0%	52.9%	60.0%		
	現行課程	○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	3回	1.8回	3回	2.6回	3回	3回	1.4回		
			コミュニケーション英語Ⅱ	3回	1.5回	3回	1.8回	3回	3回	2.0回	3回	
			コミュニケーション英語Ⅲ	3回	1.5回	3回	1.5回	3回	3回	1.5回	3回	
			英語表現Ⅰ	5回	2.6回	5回	2.2回	5回	5回	1.3回		
			英語表現Ⅱ	5回	3.7回	5回	3.5回	5回	5回	7.3回	5回	
			英語表現Ⅲ	5回	1.3回	5回	2.2回	5回	5回	1.6回		
		○ライティングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	5回	1.7回	5回	1.8回	5回	5回	1.3回	5回	
			コミュニケーション英語Ⅱ	5回	1.7回	5回	1.8回	5回	5回	1.3回	5回	
			コミュニケーション英語Ⅲ	4回	1.6回	4回	1.7回	4回	4回	1.3回	4回	
			英語表現Ⅰ	5回	2.0回	5回	2.3回	5回	5回	1.6回		
			英語表現Ⅱ	5回	2.9回	5回	2.6回	5回	5回	1.8回	5回	
			英語表現Ⅲ									
	新課程	○スピーキングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ									3回
			英語コミュニケーションⅡ									
			英語コミュニケーションⅢ									
		論理・表現Ⅰ										5回
論理・表現Ⅱ												
論理・表現Ⅲ												
○ライティングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ										5回	
	英語コミュニケーションⅡ											
	英語コミュニケーションⅢ											
論理・表現Ⅰ										5回		
論理・表現Ⅱ												
論理・表現Ⅲ												
④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	75.0%	61.2%	75.0%	63.1%	75.0%	75.0%	75.0%	62.6%	75.0%			
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	78.0%	77.4%	80.0%	82.8%	83.0%	85.0%	85.0%	84.6%	90.0%			
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	52.0%	46.3%	54.0%	44.3%	50.0%	50.0%	50.0%	42.3%	50.0%			

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	98.0%	92.5%	98.0%	98.6%	100%	100%	94.2%	100%	
		公表(%)	70.0%	16.3%	50.0%	20.7%	50.0%	60.0%	46.0%	63.0%	
		達成状況の把握(%)	98.0%	49.0%	60.0%	44.8%	60.0%	70.0%	61.1%	75.0%	
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	80.0%	69.3%	75.0%	72.3%	75.0%	75.0%	63.7%	78.0%		
	③パフォーマンステストの実施状況	スピーキングテスト(回)	3回	3回	3回	3回	3回	3回	3回	3回	
		ライティングテスト(回)	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	
	④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	73.0%	78.7%	80.0%	79.8%	83.0%	83.0%	72.9%	85.0%		
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50.0%	51.5%	55.0%	53.0%	55.0%	55.0%	60.8%	58.0%			
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	40.0%	37.3%	45.0%	34.5%	37.0%	37.0%	44.2%	50.0%			

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	学習到達目標の整備状況	設定(%)				80.0%		90%	57.1%	100%	
		公表(%)				80.0%		90%	9.3%	100%	
		達成状況の把握(%)				80.0%		90%	45.1%	100%	

独自	No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
	①	海外留学・交流派遣人数(高校)	320	320	320	231						